

7月 は 同和問題啓発 強調月間です。



差別のない明るい社会を築くために

福岡県では、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定めています。

部落問題（同和問題）は、日本の歴史的過程で形づくられた身分差別により、国民の二部の人々が、長い間、生活のさまざまな場面で差別を受けてきた問題で、今もなお続いており、今この瞬間も差別に苦しんでいる人がいます。

日本国憲法では「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」（第14条）と法の下の平等をうたっています。また、市では令和2年12月に「直方市部落差別をはじめあらゆる差別の解消の推進に関する条例」が施行され、その中では、人権課題解決のための方策として人権教育及び啓発の重要性が説かれています。

しかしながら、部落問題（同和問題）をはじめとするさまざまな人権問題の発生は依然として

て後を絶ちません。さらには、匿名性や拡散性の高いインターネットを悪用して個人の名誉やプライバシーが侵害されることや、差別を助長する表現や有害な情報が掲載されるなど、人権問題もますます多様化、複雑化してきています。

人権が尊重される社会づくりを目指し、部落問題（同和問題）をはじめとするさまざまな差別を解決するためには、一人ひとりの学び、気づき、行動が必要です。人にはそれぞれ違う価値観があり、さまざまな背景や事情を抱えて生きています。そこに生きる人々が「あなたも私も大切でかけがえのない存在である」と認め合い、人権問題を自分の課題として捉え、真剣に取り組んでいくことが大切です。

市では、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが幸せに、そして人間らしく生きられる社会を実現するための取り組みを行っています。皆さんとともに人権の学びを深めていきましょう。

同和問題講演会

同和問題に対する正しい認識と理解を深めるため、県と市がそれぞれ講演会を開きます。

◎県主催

とき 7月23日（土）

午後1時30分～3時

ところ クローバープラザ大ホール（春日市）

講演 「人の世に熱と光を」

講師 駒井 忠之さん（水平社博物館 館長）

◎直方市・直方市教育委員会主催

とき 7月26日（火） 午後2時～3時30分

ところ ユニティのおがた 大ホール

講演 「部落差別はなぜ起きるのか」

講師 新谷 恭明さん

（公益社団法人 福岡県人権研究所理事長）

人権問題に関するDVDなどの 視聴覚教材の貸し出し

市民・人権同和対策課では、無料で人権問題に関するDVDなどの視聴覚教材の貸し出しをしています。グループやご家庭での学習に活用し、人権感覚を高めましょう。

申込・問い合わせ 市民・人権同和対策課

（TEL 25・2105）

人権標語と作文

市内の小・中学校の児童・生徒から、人権についての標語と作文を募集しました。今年は、標語73点、作文14点の応募の中から次のとおり入選作が決まりました。児童・生徒が自分自身の心にある「人権」についてありのまま表現したものです。これらの標語は、市内の小・中学校と公共の施設、合わせて25か所に啓発標語看板として、7月から2か月間掲示します。

令和四年度 人権標語

ちがいをね

みとめあえれば 笑顔さく

直方南小6年 石井依良

一言で

人の気持ちは 変わるかも

福地小6年 佐藤流星

ひつぱろうよ

いじめの花を めきましよう

下境小6年 嶋村颯人

笑顔のね

あの子も裏では 泣いている

直方一中3年 大川内海斗

はやくやろう

みんなの心の バリアフリー

中泉小5年 坂本晴明

この言葉

言っていいかな 考えよう

直方北小6年 井上瑠菜

目で贈る

マスクで隠れた 優しい笑顔

直方三中3年 生田和華

差し伸べた

あなたのその手が 希望の一步

直方二中1年 番庄稀里子

一言で

あのこの未来 かわつてく

上頓野小5年 佐藤明里

「大丈夫？」

未来が変わる その一言

新入小6年 福川紗弥子

やさしい花

種をとばして 笑顔さく

直方南小5年 木村彩笑子

植えるな

戦争のたね 咲かそう平和の花

直方一中3年 高嶋大樹

優しさは

心の傷の 絆創膏

直方三中3年 中島隆太

差別しない

考えるから 実行へ

直方二中2年 松野百華

差別とは

人がつくった 見えるかべ

新入小6年 佐々木心寧

みんなの気持ち

考えて動こう 考動だ

直方西小6年 藤本希愛

ムリはだめ

そうだししょう 友だちに

直方東小6年 久米田いこな

大丈夫

うその笑顔を 見せないで

感田小6年 松原奏

ありがとう

言葉一つで 笑顔だね

植木小6年 佐々木航平

いじめない

あたりまえのこと まもりたい

植木中2年 横光壮汰

それぞれの

個性を知って 認め合う

直方一中2年 篠崎咲楽

見えている？

画面の向こうの 友の顔

直方三中1年 旭由珠

くらべない

一人一人が 宝物

直方二中1年 松持美咲

ふり返ろう

さっきの言葉 もう一度

上頓野小5年 山本希乃花

気づいてよ

笑顔の裏の SOS

植木中2年 岡松葵

権文 人作

見えない壁

直方第三中学校 三年 大河内 まりん

「車いすの人」と聞くとどう思う？良い印象をもっている人は少ないかもしれない。私も「できることが少ない」と思いこんでいた。そんな思いこみをふきとばしてくれたのは一人の車いすの女性だった。

私が家族と旅行に行った時、近くの海で遊んだ後温泉に入ると車いすの女性がいた。車いすを見るのが初めてで驚いていると「すみません！このマットとってもらっていいですか？」と言ってきた。母がすぐに「いいですよ」と対応していると「ありがとうございます！ところで海とへ行かれたんですか？」と聞いてきた。私が「はい！冷たかったですよ」というと女性は「いいですね！私も行きたいけど車いすだとどうしても…」と言った時、咄嗟に私が「あ！スロープがありましたよ」と言うと女性は笑顔で「そうなんだ！明日にでも行ってみます！」と嬉しそうに話していた。

次の日海に行ってみると女の人はお母さんに車いすをおしてもらいながら海辺を散歩していた。

私はそれを見たときに温かい気持ちになったと同時にハッとした。今まで「車いすだとできることが少ない」と決めつけていたからだ。その思いこみを訂正したとともに何も知らなかった自分が恥ずかしくなった。見えない壁はもとからあったのではなく、自分が壁をつくっているだけ。車いすだけではなくこれは友達の間でも言えると思う。「私はあの子みたいに頭よくないし…」と思って壁をつくってしまう。そういう時はぜひ相手との共通点を見つけてみてほしい。小さいことでいい、そうすれば「あ、似てる！」ってことがたくさん見つかるから。そうやって身近な壁を無くしていきたい。

そして世界中の人が壁をつくることのない平和な世界にしていきたい。